



本とつながる居場所づくり

ツイート

4

[連載リスト](#)

広がる子ども文庫



子どもたちの憩いの場にと、和歌山市冬野の正教寺に設立された「まゆーら文庫」。初めのころは、本をペラペラめくったり、「ぼくにあう本探して」などと言っていた子どもたちも、今では自分で選べるようになった。年間行事やカレーパーティーなど、読書以外の交流もさかん。合気道2段の芝直子さんが事務を担当し、わきあいあいのムードだ。 (1980/4/

13)

立ち上がる母親たち

1970～90年代にかけ、全国的に広まった子ども文庫。子どもたちに本を楽しめる空間をつくろうと、母親たちが自宅の一室を開放し、人気を集めた。この年のニュース和歌山は連載「子ども文庫訪問記」を始め、8カ所を紹介している。

当時、県立図書館は和歌山城の二の丸広場にあった。75年に橋本市図書館、78年に海南市立児童図書館と、県内では市町立図書館の創設が続いており、81年には和歌山市民図書館が開館。当時は現在のようなコミュニティセンターでの貸し出しサービスもなく、遠方地域には県立図書館の巡回車が来た。

そんな中、自宅や、自治会館などの一室を借りた私設の文庫が各地で次々と立ち上がった。78年に情報共有や勉強会のため、文庫のネットワークとして紀北子どもの本連絡会(きこれん)が発足するほど活発だった。



1976年に開設されたまゆーら文庫。これまで360人の子どもが通った

冒頭の記事、連載第1回目に登場した和歌山市冬野のまゆーら文庫は、今も運営を続ける。開設から30年以上子どもたちを見守る藤浪和子さん(74)は「本をお寺の廊下に置いたら、地域の子どもたちが自由に読み出したのが始まりでした」、芝直子さん(62)は「当時は多い日で1日30人は来ていたと思います。今、この文庫へ来る子は8人ほどで、皆ここへ通った子の“2世”ですね」。

本棚には、図書館から団体貸し出しとして年間200~500冊を借りたり、助成を受けて購入したりして集めた児童書や絵本、伝記を並べた。

連載に登場した紀の川市の「桃の木文庫」を引き継ぎ、現在きこれん代表を務める宮本知華さん(49)は「私自身、東高松にあったぶるむ文庫に通っていました。高松小の子がほとんどで、プレハブみたいな部屋に本棚と長い机があり、自由に読んでいましたよ」とにっこり。

本を読むだけでなく、カレーなどの調理体験や季節行事など、イベントも文庫ならではの楽しみだった。当時まゆーら文庫に通った和歌山市の上田大愚(たいぐう)さん(45)は「自分たちで新聞を作ったり、境内で遊んだり。学校が終わって家に帰ってから行くと、自転車がずらつと並んでいる。皆、文庫に行く日を楽しみにしていました」。

図書館が増えても

各地に図書館ができ、学校図書も充実、子どもたちの遊びやライフスタイルは変化した。主宰者の高齢化や子どもの減少を受け、最盛期には紀北地方だけで約20軒あった文庫の多くが解散したり、読み語りグループとなって活動する中、今も四軒が開いている。芝さんは「本を借りて読むだけなら図書室でもいいのに、なぜ文庫が今も続いているか。それはやはり、本を通じた交流、子どもたちの居場所になっているからでしょうね」。温かいまなざしは今も変わらない。



「ニュース和歌山が伝えた半世紀」は毎週土曜号掲載です。



▶▶▶ 1980年掲載の主なニュース ◀◀◀									
10	7	6	5	4	3	3		2	17
5	9	8	21	6	23	19			
号	号	号	号	号	号	号			
和歌山の地価高騰 和歌山市民図書館あす起工	本町公園に地下駐車場オープン	増える児童数 は構見小の約2千人。 住金工場用地の埋め立て工事開始	電波の谷間解消 木ノ本に民放中継局開局	社会科副読本 70ページ中に25カ所もミス	朝市を開催し、この後、他地区にも広がった 主婦が結束し業者と直接交渉。河西地区で安価の	りながら、京都や奈良より高いのはおかしい」と 主婦が結束し業者と直接交渉。河西地区で安価の	大成功 主婦の朝市：「和歌山は鮮魚が豊富であ		
和歌山の地価高騰 平均地価全国9位に	和歌山の地価高騰 平均地価全国9位に	和歌山の地価高騰 平均地価全国9位に	和歌山の地価高騰 平均地価全国9位に	和歌山の地価高騰 平均地価全国9位に	和歌山の地価高騰 平均地価全国9位に	和歌山の地価高騰 平均地価全国9位に	和歌山の地価高騰 平均地価全国9位に	和歌山の地価高騰 平均地価全国9位に	和歌山の地価高騰 平均地価全国9位に

※ニュース和歌山2014年4月26日号掲載

戻る